

2022年09月14日(水)

「水曜サロン with 赤堀会長」第3期 第4回(通算第34回)

## 高知県が目指すスタディログを活用した個別最適な学びの実現

武市 正人 氏(高知県教育委員会事務局 教育政策課)

### 1. 内容

- ・高知県の目指す姿
- ・高知県の現在地
- ・「高知家まなびばこ」の運用
- ・スタディログ等の効果的な活用に向けて

### 2. 所感

県が構築する学習 e ポータルだからこそその良さがよくわかりました。いくつかピックアップします。高校までデータが引き継がれて、学習データの連続性を確保し活用できること。各自治体の意欲や財政力、家庭への負担に差が出ない。各教材やツールのデータをサマライズして表示するダッシュボードについて、日々データが更新されることもあり、現場の意見で変えているとのこと。データを生かすも殺すも見方、リテラシー次第ということが質疑で出ましたが、教員向けの研修もやり易いとのこと。細かいですが、トップページに、県独自の悩み相談窓口の連絡先を掲載できていることなども独自構築のメリットと感じました。逆に苦勞されている点もあるようで、まだ集めるデータの標準仕様が決まっていないこともあり、異なる教材のデータを同じようにダッシュボードに表現する為に、各社との調整が必要であったり、データを渡していただけない事業者もいるということでした。

質問も多く関心の高さが伺えます。四国四県や県内市町村との連携、独自コンテンツの更新や強化、学習指導要領コードの紐つけなど、そして、個人情報について。個人のデメリットになるような使い方はしない、メリットになる使い方をする事が大原則で、塾で使いたい、入試で使いたいといった要望もあるが、今は対応しない。保護者の理解を得る工夫は、リーフレットでメリット・デメリットをお知らせし、質問が多いようなら説明会を開くという段取りとのこと。実証実験の学校では、同意を得られているということでした。

武市さんは、将来の展望を語ってくれました。GIGA 一人一台端末整備により多様な教育の可能性を引き出せるようになった。データを集めていくことで、Aiの活用を視野に入れている。将来、先端技術を用いて新しい知識や技術の発見を目指す創造性を育む教育を掲げている、と。先頭を走っている武市さんには、全国各自治体における教育データの標準化、その鍵を握る学習 e ポータルの活用推進をリードして欲しいと思いました。

武市さん、ありがとうございました！

以上